アカシア　NO.13

中国を見て・感じて・探る…大連事務所発のレポート

大連のネットニュース「天健ネット」より

大連対日サービスアウトソーシング規模　世界一に

25 日、大連が海外経済貿易業務会議を開いた。2009 年実質外資使用額は 60 億ドルを超え、外資吸収は全省の第一で、規模は全国大都市のトップについた。年間外貿輸出入総額は 400 億ドルを超え、東北の他の地区の総額 80%を占め、昨年より 5 ポイント上昇した。年間実質国外投資額は 3.01 億ドルで、例年に比べ 276%増加した。サービスアウトソーシングは急速に発展している。

現在、大連市全体で 891 のアウトソーシング社を有し、8.8 万人に職を提供し、大連は中国ソフトウェアとサービスアウトソーシング業の代表都市となった。全産業が国内で先発優位(競争相手よりも市場に早く参入することで得られるメリットのこと)を形成し、特に対日サービスアウトソーシング規模は中国一である。

大連(日本)ソフトウェアパーク、20 あまりの企業が進出

現在、大連(日本)ソフトウェアパークには 20 以上の大連の IT 企業が進出しているが、今年 3 月までには総床面積 2000 平方メートルが使用される見込み。大連(日本)ソフトウェアパークのほかに、今年中には大連ハイテクパーク(高新園区)で欧米系 IT 市場の展開を目指す。これは「大連日報」が伝えた。

大連(日本)ソフトウェアパークは 2008 年 12 月 3 日に市政府によって設立、高い新区管理委員会によって投資・運営。東京のランドマーク的存在のひとつである、東京都新宿区の新宿住友ビルに設けられている。オフィスや会議室などを含めて総床面積は 1188 平方メートル。

YIDATEC(億達信息)は大連(日本)ソフトウェアパークに初めて進出した企業であり、最も広いオフィスを構える企業でもある。2009 年初めに日本の IT 企業 2 社の買収に成功した後、YIDATEC 日本オフィスの人員は 70 人を突破、もとの人数の 2 倍以上に達した。

大連市は、日本語教育に力を入れた結果として、対日 BPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）の世界一になったと言われている。しかし、このことは大連市政府や大連の BPO を行う企業の努力の一端しか語っていない。

大連市の BPO を牽引してきた瀋陽に本社を置く企業・NeouSoft。瀋陽にある東北大学のコンピューター学部の教授で、現在は副学長を務める劉積仁氏がつくったソフトウエア会社だ。

この会社は、大連に Neusoft Institute of Information（東軟情報学院）という大学をつくり、（その後作った成都および南海のキャンパスと併せて）2万 3000 人の学生を集めて教育し、自分のところで雇用したり、クライアントに紹介したりしている。

職業トレーニングをして、優秀なエンジニアを育てて、自分たちの関連の深い会社に優先的に紹介しているのだ。もちろん自分たちのところには一番優秀な人材を採ってくる。この大学は、実務中心の教育で、特にコンピューターサイエンス、プログラム、CAD や分野別組み込みソフトを重点的に教えている。また英語と日本語も必須科目となっている。

また、大連では第2のソフトウエア会社になっている DHC（大連華信計算機技術有限公司）は、ハイテク中のハイテクの会社。非常に難しい構造計算をやっていると同時に、日本ではソフトウエア技術者が非常に少ないシステムまで手がけている。日本の会社よりもレベルの高い技術者を多く確保しているからだ。

つまり、日本企業がここに仕事を頼むのはコストだけが理由ではない。日本ではもう扱えない仕事をやってくれる人材がいるというメリットがあるからこそ、ここに仕事を委託している。それができるのは、東北地方にある大連では、「農耕民族」的な粘り強い人がまだまだ採用できる、ということだ。転職が「国民的スポーツ」といわれる中国では珍しく、離職率を低く抑えることができているからだ。

そして最後に、営業力の強化も大連 BPO の躍進を支えている。新宿の住友三角ビルに大連ソフトウエアパークのサテライトを設け、そこで日本の会社への営業や打合せなど BPO 業務が円滑に行える仕組みも持っている。今では、大連のソフト関連会社が20社以上も進出している。

これだけしっかりした体制ができているからこそ大連は、対日一位であり、単に地理的な要因や日本語教育だけで勝ち得たものではない。初期の BPO の代名詞であるコールセンターは、日本語教育で仕事が取れたかもしれない。しかし、そこに甘んじることなくコールセンターの設置目的である CS（顧客満足）の経営理念も同時に学んだからこそ、今の大連 BPO の繁栄があるように思える。